

# 2023年度 青少年のインターネット・リテラシー指標等に 係る調査結果

---

2024年6月  
総務省情報流通行政局  
情報流通振興課  
情報流通適正化推進室

# 目次

---

## 1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するための リテラシー指標等に係る調査

－ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－

## 2. ILASテスト及びインターネット利用実態に係るアンケート概要

## 3. 2023年度ILASテスト結果

## 4. アンケート結果

### 4－1. ペアレンタルコントロールの状況

### 4－2. 学校における取組の状況

### 4－3. トラブル遭遇時の対応

### 4－4. ICT機器利用に必要な能力の状況

# 1. 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査 －ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students)－

- スマートフォンが急速に普及し、インターネットがますます青少年にとって身近になる中、青少年がインターネットを安全に安心して活用するためには、インターネット・リテラシーの向上が必要。
- 総務省では、利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）の提言（2011年10月）やOECD勧告として成立した「オンライン上の子供の保護に関する勧告」（2012年2月）を受け、青少年のインターネット・リテラシー向上のための前提として、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標（ILAS:アイラス）として開発。また、2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテスト（ILASテスト）を、インターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施。
- 今年度は、75校の高等学校において、2023年12月から2024年2月にかけてテスト及びアンケートを実施。その結果を集計・分析し、「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査結果」として公表。

## <参考>

### ■「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」（2009年4月1日施行）

#### 【基本理念】

①青少年の適切なインターネット活用能力の習得（インターネット利用に係るリテラシー向上）、②青少年の有害情報の閲覧機会の最小化（フィルタリングの機能向上・普及、関係事業者による取組み）、③民間による自主的・主体的取組、国等による尊重・支援

### ■利用者視点を踏まえたICTサービスに係る諸問題に関する研究会（青少年インターネットWG）提言（2011年10月）

#### 2. 各関係者に求められる役割等 （中略）

行政には、（特にインターネット上の危険への対処に係る）インターネット・リテラシーに関する指標を、国際的に比較可能な形で整備し、定期的に公表していくことが求められている。

### ■青少年のインターネット・リテラシー指標に関する有識者検討会（2011年9月～2012年3月）

教育学や法学等に知見を有する有識者の方々からのご知見を踏まえ、特にインターネット上のリスク分類と、これに対応した危険・脅威への対応能力の整理、この能力を明らかにするテストの開発・分析・整理を実施。

（顧問）堀部政男（一橋大学名誉教授）、渡部洋（東京大学名誉教授）、（座長）赤堀侃司（白鴎大学教育学部長・教授）、（座長代理）新井健一（ベネッセ教育研究開発センター長）※

## 2. ILASテスト及びインターネット利用実態に係るアンケート概要

- テスト及びアンケート調査の実施概要
  - ・実施時期：2023年12月～2024年2月
  - ・実施対象：全国の高等学校第1学年
  - ・実施形式：CBT方式、無記名回答
  - ・実施内容：①リスク対応能力に係るテスト(ILASテスト)(全49問) ②インターネット利用状況に関するアンケート
  - ・実施委託事業者：PwCコンサルティング合同会社
  - ・実施対象校・参加者数：下図のとおり

設立区分		協力人数		平均正答率	
国公立	53校	男子	6,589 人	男子	69.8%
		女子	6,192 人	女子	73.3%
私立	22校	性別無回答	327 人		
計	75校	計	13,108人	全体	71.4%

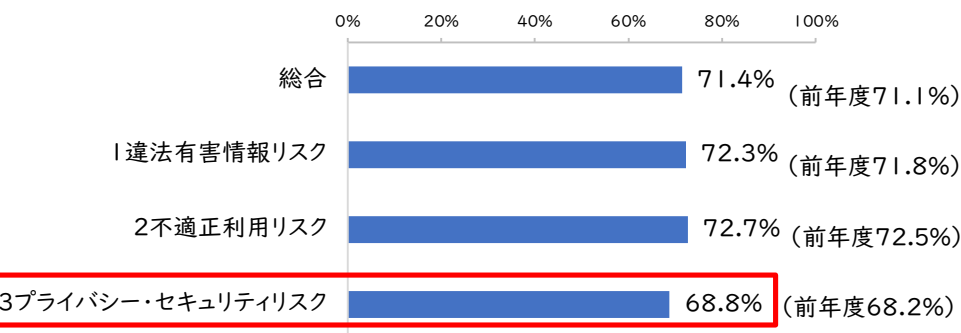
- 青少年に必要なリスク対応能力の分類

- 1.【違法有害情報リスク】
    - 1a.【違法情報リスク】違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
    - 1b.【有害情報リスク】有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
  - 2.【不適正利用リスク】
    - 2a.【不適切接触リスク】情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
    - 2b.【不適正取引リスク】電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
    - 2c.【不適切利用リスク】利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
  - 3.【プライバシー・セキュリティリスク】
    - 3a.【プライバシーリスク】プライバシー保護を図り利用できる。
    - 3b.【セキュリティリスク】適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。

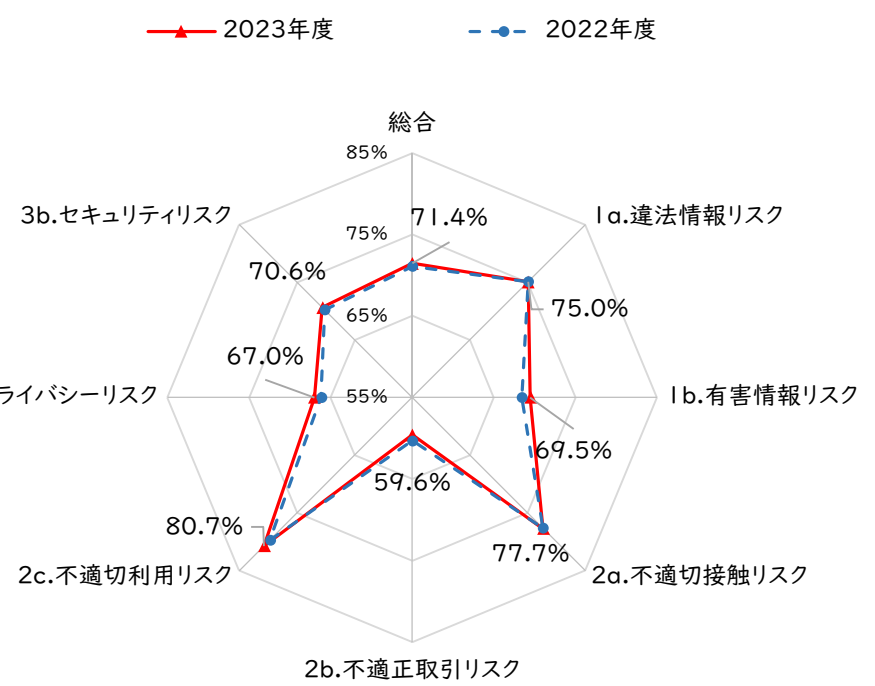
### 3. 2023年度ILASテスト結果

- リスクの大分類別の正答率については、「3. プライバシー・セキュリティリスク」に対応する問の正答率(68.8%)が、その他のリスクに対応する問に比べてやや低い。
- リスクの中分類別の正答率については、「2c. 不適切利用リスク」(80.7%)に対応する問の正答率が最も高く、「2b. 不適正取引リスク」(59.6%)に対応する問の正答率が最も低い。

【図表1】リスク大分類ごとの正答率



【図表2-2】リスク中分類ごとの正答率



【図表2-1】リスク中分類ごとの正答率

総 合		71.4%	(前年度 71.1%)
1. 違法有害情報リスク	1a. 違法情報リスク 著作権、肖像権、出会い系サイト等	75.0%	(前年度 75.1%)
	1b. 有害情報リスク 不適切投稿、炎上、閲覧制限等	69.5%	(前年度 68.4%)
2. 不適正利用リスク	2a. 不適切接触リスク 匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	77.7%	(前年度 77.6%)
	2b. 不適正取引リスク フィッシング、ネット上の売買等	59.6%	(前年度 60.3%)
	2c. 不適切利用リスク 過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	80.7%	(前年度 79.7%)
3. プライバシー・セキュリティリスク	3a. プライバシーリスク プライバシー、個人情報の流出等	67.0%	(前年度 66.2%)
	3b. セキュリティリスク ID・パスワード、ウイルス等	70.6%	(前年度 70.2%)

※上図中の数字は2023年度の数値

### 3. 2023年度ILASテスト結果（リスク分類別の経年比較）

- 2023年度においては、前年度までの正答率とほぼ横ばいであるが、プライバシー・セキュリティリスクに対応する設問などの一部の設問では正答率が前年度に比べてわずかに上昇。
- 2022年度に一部設問の改修を行っているため、2021年度までの結果は参考値として取り扱う。

参考値											
リスク分類	具体例	2015年度 (n=13,647)	2016年度 (n=14,812)	2017年度 (n=17,223)	2018年度 (n=12,626)	2019年度 (n=7,252)	2020年度 (n=12,499)	2021年度 (n=14,021)	2015~2021年平均	2022年度 (n=12,250)	2023年度 (n=13,108)
総合	-	69.7%	67.2%	68.8%	69.6%	68.7%	72.0%	70.6%	69.5%	71.1%	71.4%
1. 違法有害情報リスク											
1a.	違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	72.9%	71.8%	73.8%	73.6%	73.4%	76.0%	75.9%	73.9%	75.1%
1b.	有害情報リスク	不適切投稿、炎上、閲覧制限等	68.2%	65.9%	66.8%	67.4%	66.0%	69.1%	67.1%	67.2%	68.4%
2. 不適正利用リスク											
2a.	不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	78.3%	75.8%	77.0%	77.1%	76.6%	79.3%	78.3%	77.5%	77.6%
2b.	不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	57.1%	54.6%	56.4%	57.5%	57.3%	61.9%	60.2%	57.9%	60.3%
2c.	不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	82.4%	77.5%	79.4%	80.2%	78.9%	81.5%	79.6%	79.9%	79.7%
3. プライバシー・セキュリティリスク											
3a.	プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	63.9%	60.8%	62.3%	63.9%	62.0%	66.2%	64.7%	63.4%	66.2%
3b.	セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス等	65.3%	64.3%	65.6%	67.4%	66.8%	69.9%	68.5%	66.8%	70.2%

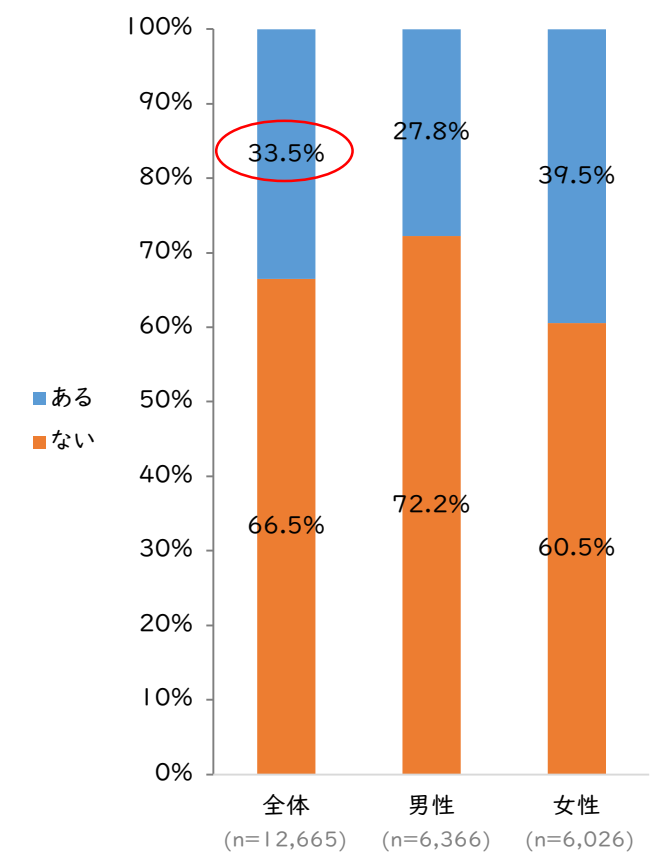
4. アンケート結果

4-1.ペアレンタルコントロールの状況 ①家庭でのルールの有無・内容

- スマートフォンやSNSを利用する際の家庭でのルールの有無について、全体の33.5%が「ある」と回答。【図表1】
- 家庭におけるルールの内容としては、誹謗中傷の書き込みをしない等の「発信情報の制限」(44.5%)が最も多く、次いで「情報公開(個人情報)の制限」(39.6%)が多い。【図表2】

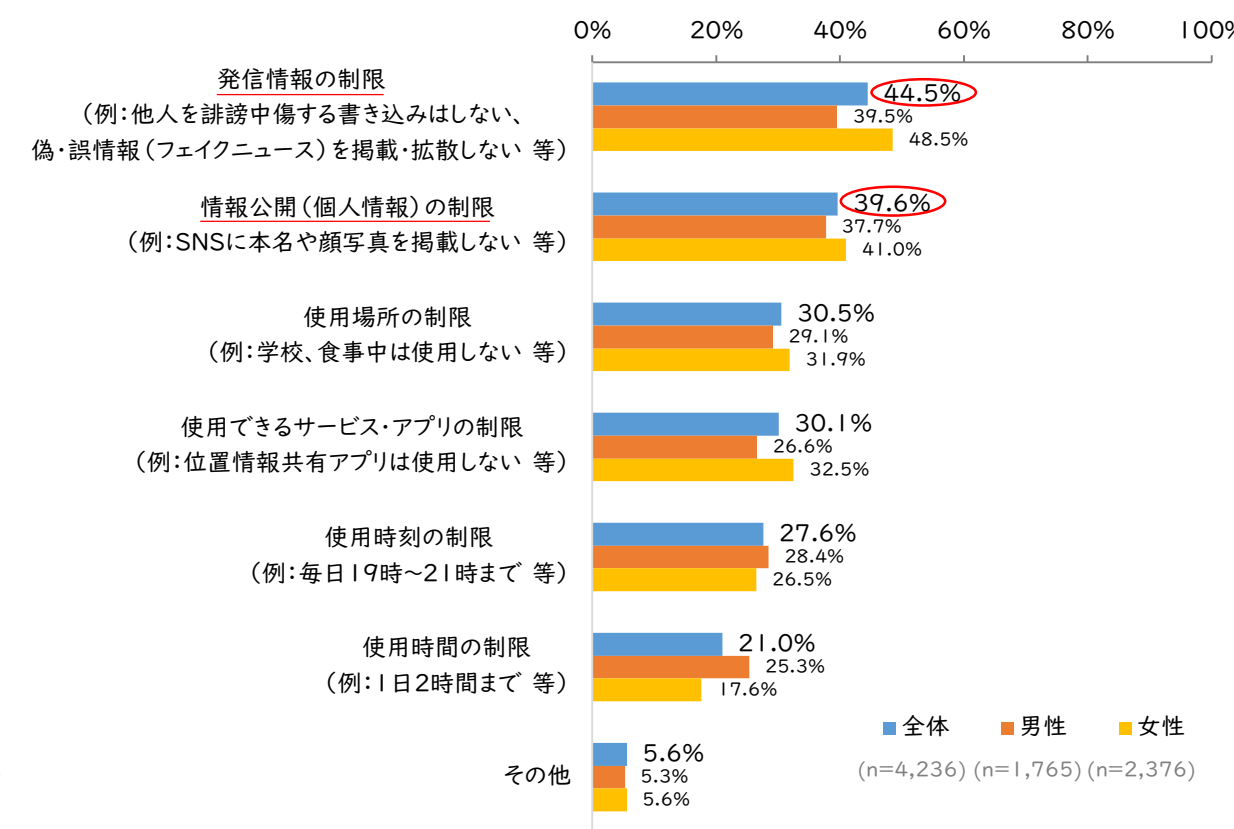
【図表1】家庭でのルールの有無(択一回答)

スマートフォン等やSNSを利用する際の家庭でのルールがありますか。



【図表2】家庭でのルールの内容(複数回答)  
(母数:家庭でのルールが「ある」と回答した者)

家庭ではどのようなルールがありますか。



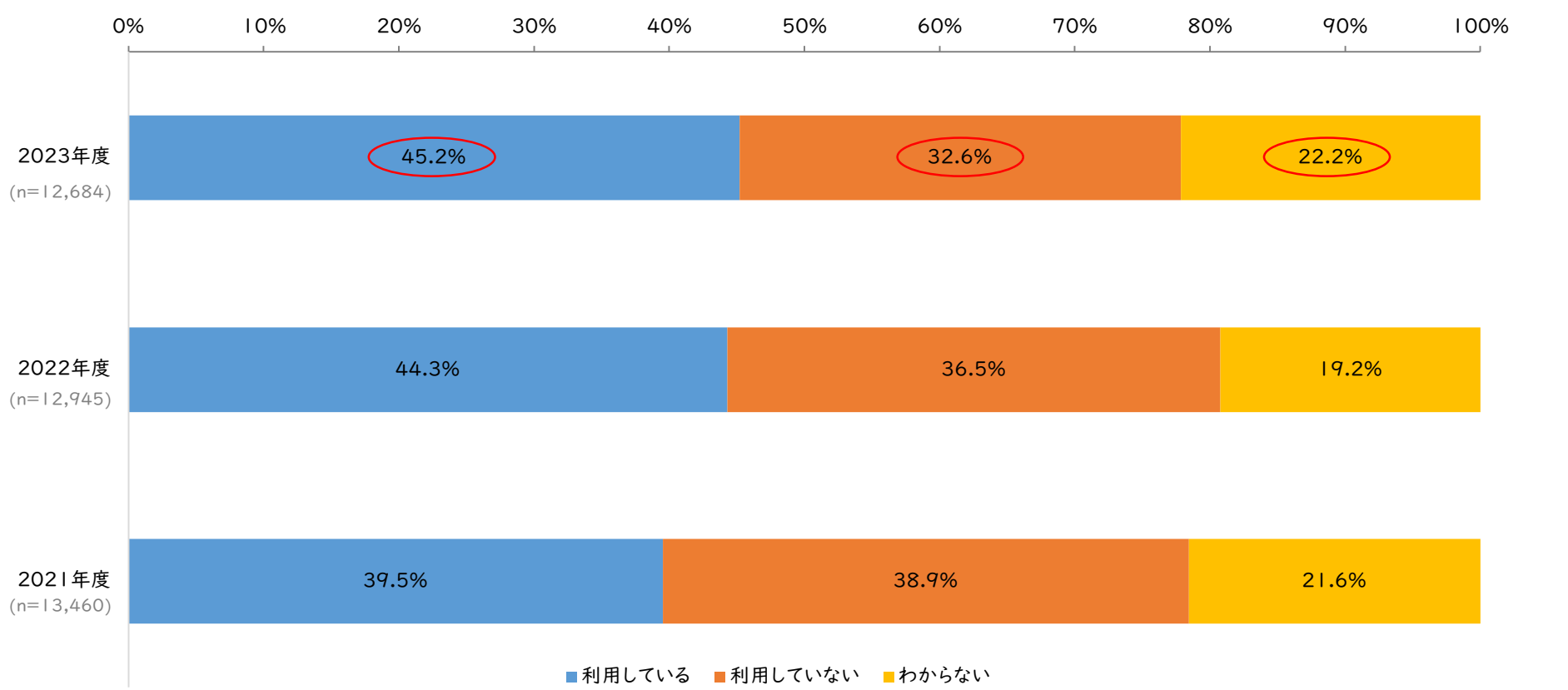
4. アンケート結果

4-1.ペアレンタルコントロールの状況 ②フィルタリング利用状況

- フィルタリング利用状況については、全体の45.2%が「利用している」と回答。
- その一方で、32.6%が「利用していない」、22.2%が「わからない」と回答。

【図表】フィルタリングの利用状況（択一回答）

あなたはフィルタリングサービス（あんしんフィルター等のアプリだけでなく、スクリーンタイムやファミリーリンク等のOSの機能やサービスも含みます。）または機能制限を利用していますか（最も利用している機器についてお答え下さい）。



(※グラフは小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)  
(※2021年度の集計においては、「以前利用していたが、今は利用していない」「利用していないが、今後利用しようと思う」を「利用していない」に合算し、算出)



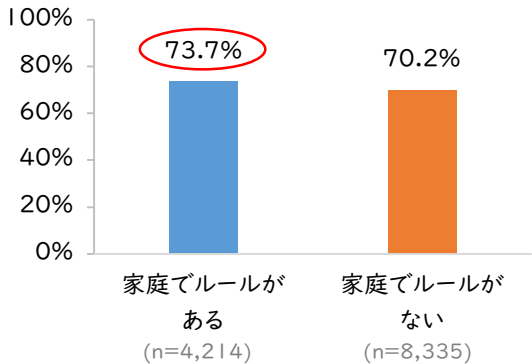
4. アンケート結果

4-1.ペアレンタルコントロールの状況 ③家庭でのルール・フィルタリングとILAS結果

- スマートフォンを保有していると回答した者のうち、家庭でのルールがある者の正答率は、家庭でのルールがない者に比べ、3.5%高い。【図表1】
- スマートフォンを保有していると回答した者のうち、フィルタリング等を利用している者の正答率は、それらを利用していない者に比べ、2.0%高い。【図表2】
- 家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と、正答率との関係については、「家庭でのルールあり」かつ「フィルタリング利用あり」の場合、スマートフォンを保有していると回答した者のうち74.9%と最も高く、家庭でのルールとフィルタリング利用がいずれも「なし」の場合に比べて4.1%高い。【図表3】

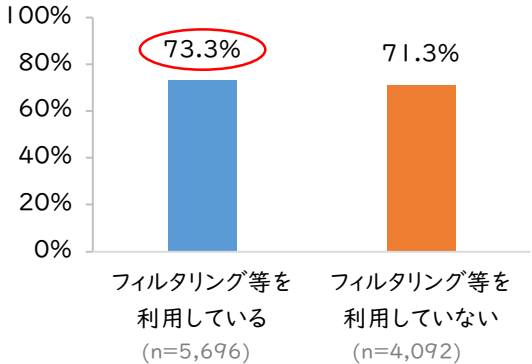
【図表1】家庭のインターネット利用ルールの有無と正答率

(母数:スマートフォンを保有していると回答した者)



【図表2】フィルタリング利用の有無と正答率

(母数:スマートフォンを保有しており、かつフィルタリング等を利用していると回答した者)



【図表3】家庭でのルールの有無及びフィルタリング利用の有無と正答率

(母数:スマートフォンを保有しており、かつフィルタリング等を利用していると回答した者)

		家庭でのルール	
		○あり	×なし
フィルタリング利用	○あり	74.9% n=2,749	71.8% n=2,914
	×なし	73.3% n=752	70.8% n=3,320

全体の正答率は71.4% (n=13,108)

(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

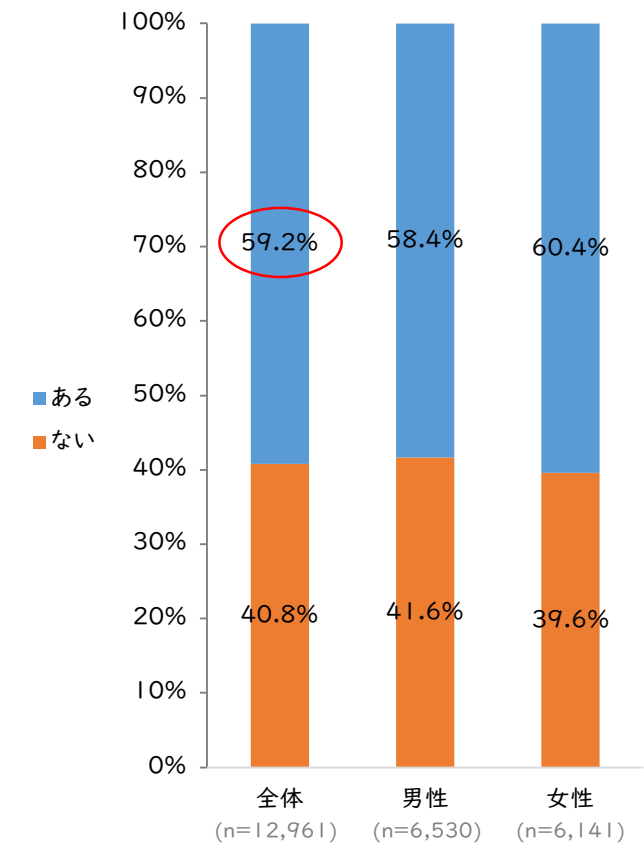
4. アンケート結果

4-2. 学校における取組の状況 ①学校でのルールの有無・内容

- スマートフォンやSNSを利用する際の学校でのルールの有無について、全体の59.2% が「ある」と回答。【図表1】
- ルールがある場合の、ルールの内容については、「使用場所の制限」(59.3%)との回答が最も多く、次いで「情報公開（個人情報）の制限」(45.1%)、「発信情報の制限」(44.2%)が続く。【図表2】

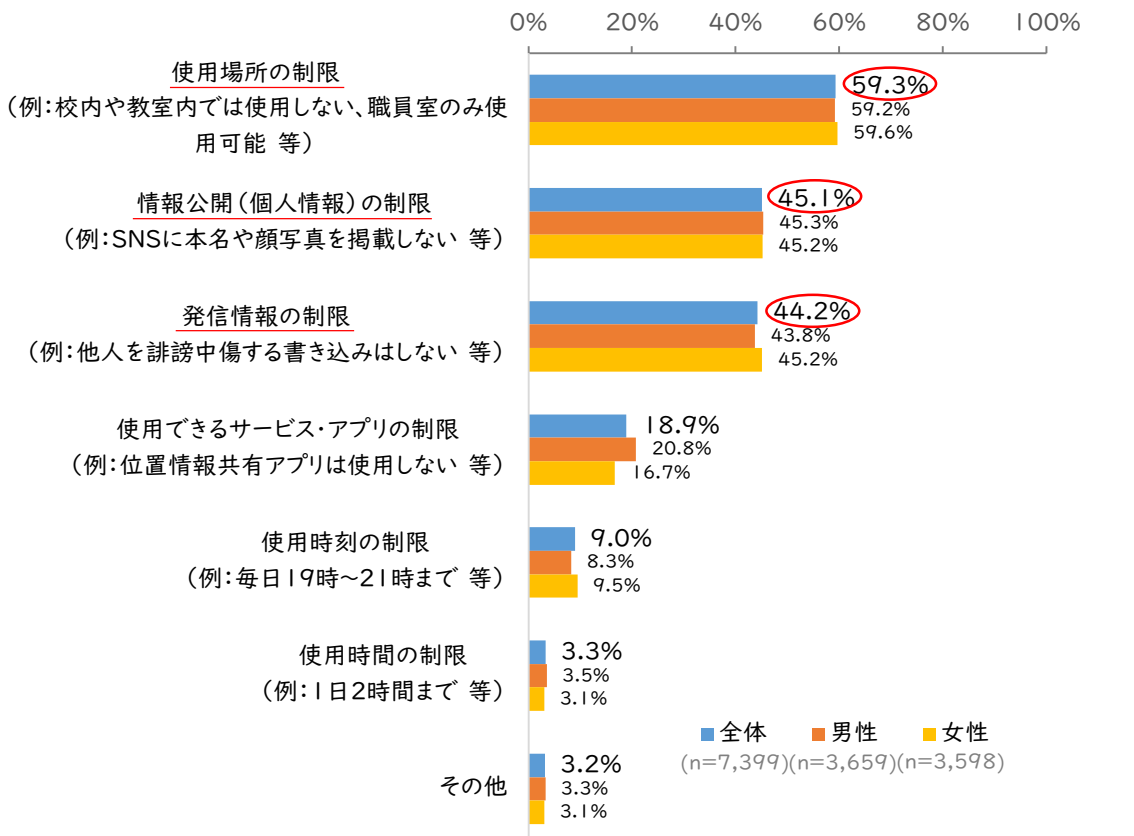
【図表1】学校でのルールの有無（択一回答）

学校でSNS等を利用する際のインターネット利用についてルールはありますか。



【図表2】学校でのルールの内容（複数回答）  
(母数:学校でのルールが「ある」と回答した者)

学校ではどのようなルールがありますか。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

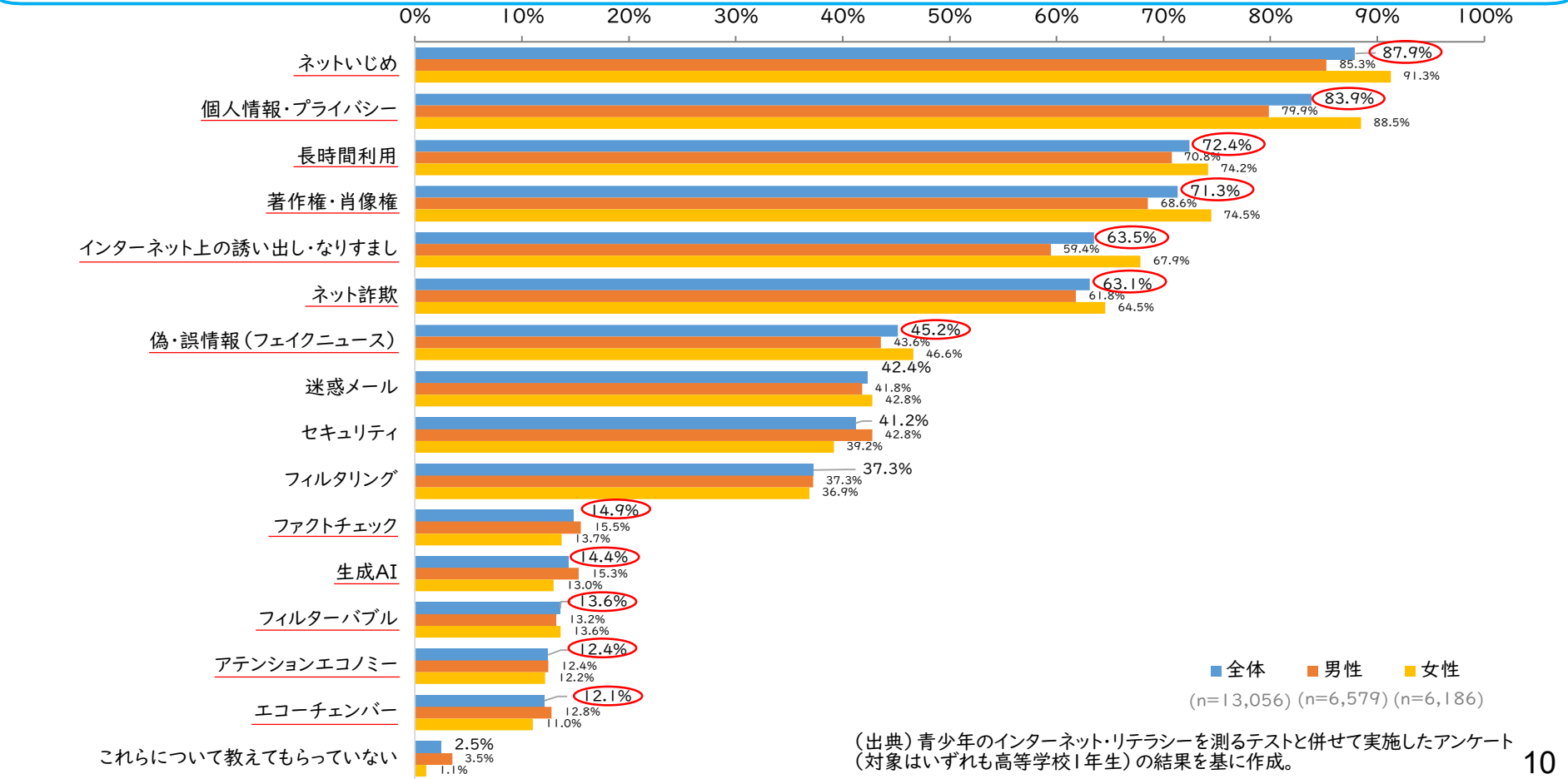
4. アンケート結果

4-2. 学校における取組の状況 ②学校での学習内容

- インターネットを利用するにあたっての注意点、または対応策について、学校で教えられた内容は「ネットいじめ」(87.9%)、「個人情報・プライバシー」(83.9%)との回答が最も多く、次いで「長時間利用」「著作権・肖像権」「インターネット上の誘い出し・なりすまし」「ネット詐欺」が6~7割前後で続く。
- 「偽・誤情報(フェイクニュース)」については半数近くの45.2%、「ファクトチェック」については14.9%、「生成AI」については14.4%が学校で教えられたことがあると回答。
- 偽・誤情報等の流通・拡散の構造的な要因とも指摘されている「フィルターバブル」「アテンションエコノミー」及び「エコーチェンバー」については、それぞれ13.6%、12.4%、12.1%が学校で教えられたことがあると回答。

【図表】学校で教えられた内容(複数回答)

インターネットを利用するにあたっての注意点、または対応策について、次の中であなたが学校で教えてもらったことはありますか。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート (対象はいずれも高等学校1年生) の結果を基に作成。

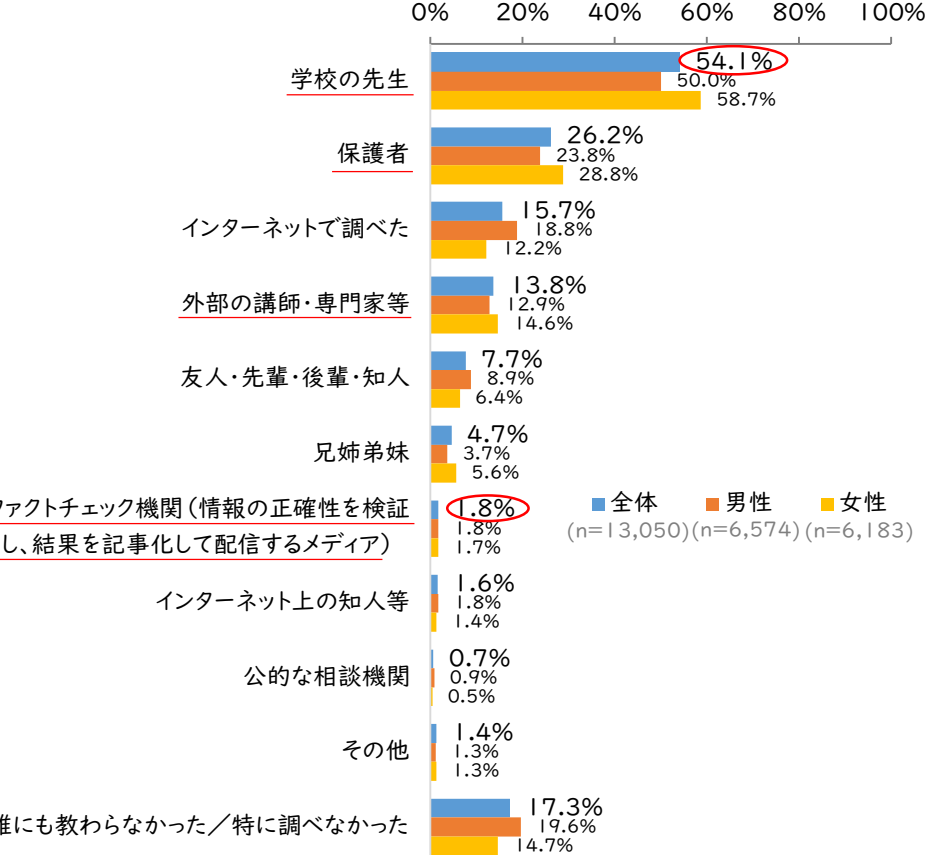
4. アンケート結果

4-2. 学校における取組の状況 ③偽・誤情報、生成AIに関する学習の有無

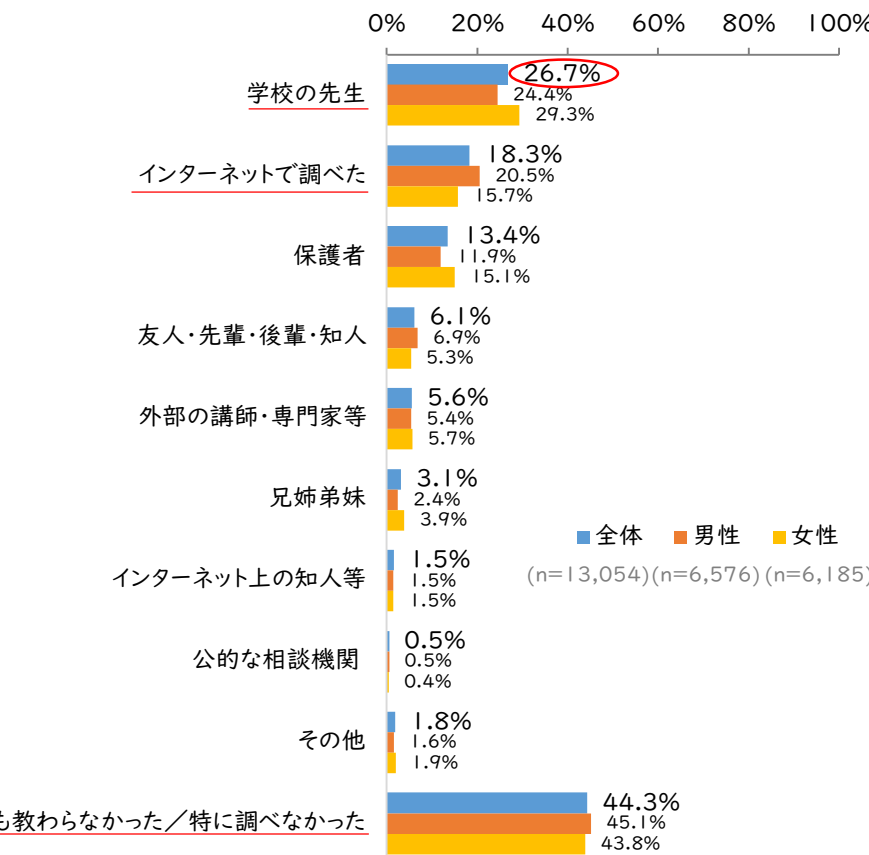
- **偽・誤情報（フェイクニュース）**や**生成AI**に関する危険や注意点、対応策については、「**学校の先生**」から教わったことがあるとの回答が最も多かった（それぞれ全体の**54.1%**、**26.7%**）。
- **偽・誤情報（フェイクニュース）**に関する危険や注意点、対応策については、生成AIに関するものに比べて、「**保護者**」や「**外部の講師・専門家等**」から教わったとの回答が多い。「**ファクトチェック機関**」から教わったとの回答は**1.8%**となった。
- **生成AI**に関する危険や注意点、対応策については、偽・誤情報（フェイクニュース）に関するものに比べて、「**インターネットで調べた**」「**誰にも教わらなかった/特に調べなかった**」との回答が多い。

今までに、インターネット上の偽・誤情報（フェイクニュース）/生成AI（文章や画像、音声等のコンテンツを生成できるAIで、対話型AI「チャットGPT」等も含みます。）について、危険や注意点、または対応策について、誰かに教わったことはありますか。

【図表1】**偽・誤情報（フェイクニュース）**に関する危険や注意点、対応策について  
教えてもらったことがある人（複数回答）



【図表2】**生成AI**に関する危険や注意点、対応策について  
教えてもらったことがある人（複数回答）



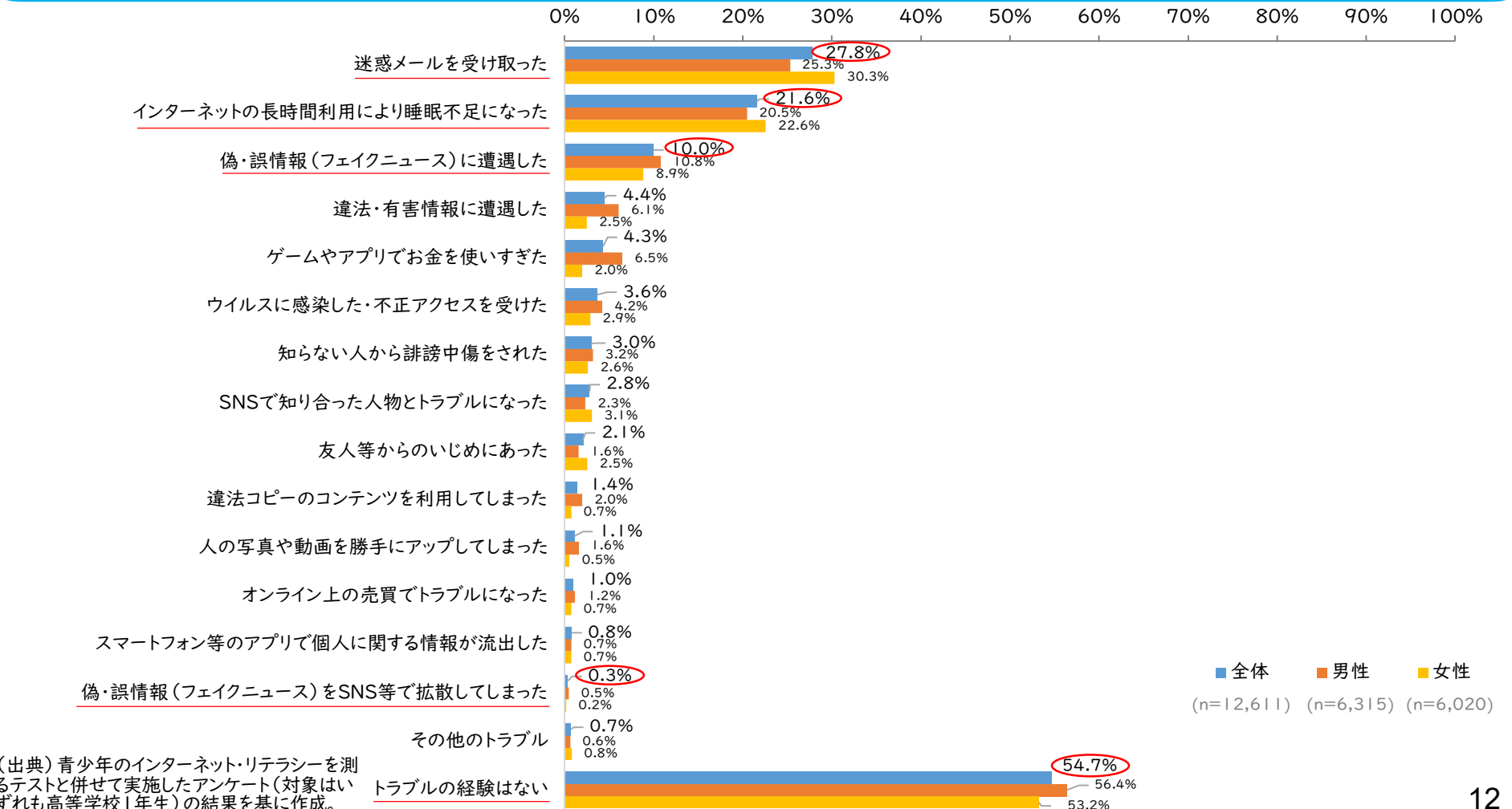
4. アンケート結果

4-3. トラブル遭遇時の対応 ①トラブル遭遇状況

- トラブル遭遇経験については、全体の54.7%が「トラブルの経験はない」と回答。
- 遭遇したトラブル内容については、「迷惑メールを受け取った」(27.8%)との回答が最も多く、「インターネットの長時間利用により睡眠不足になった」(21.6%)、「偽・誤情報(フェイクニュース)に遭遇した」(10.0%)との回答が続く。
- 「偽・誤情報(フェイクニュース)をSNS等で拡散してしまった」と回答したのは0.3%となった。

【図表】インターネット利用に際してあったことのあるトラブル(複数回答)

インターネットの利用に際して、次のようなトラブルの経験はありますか。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

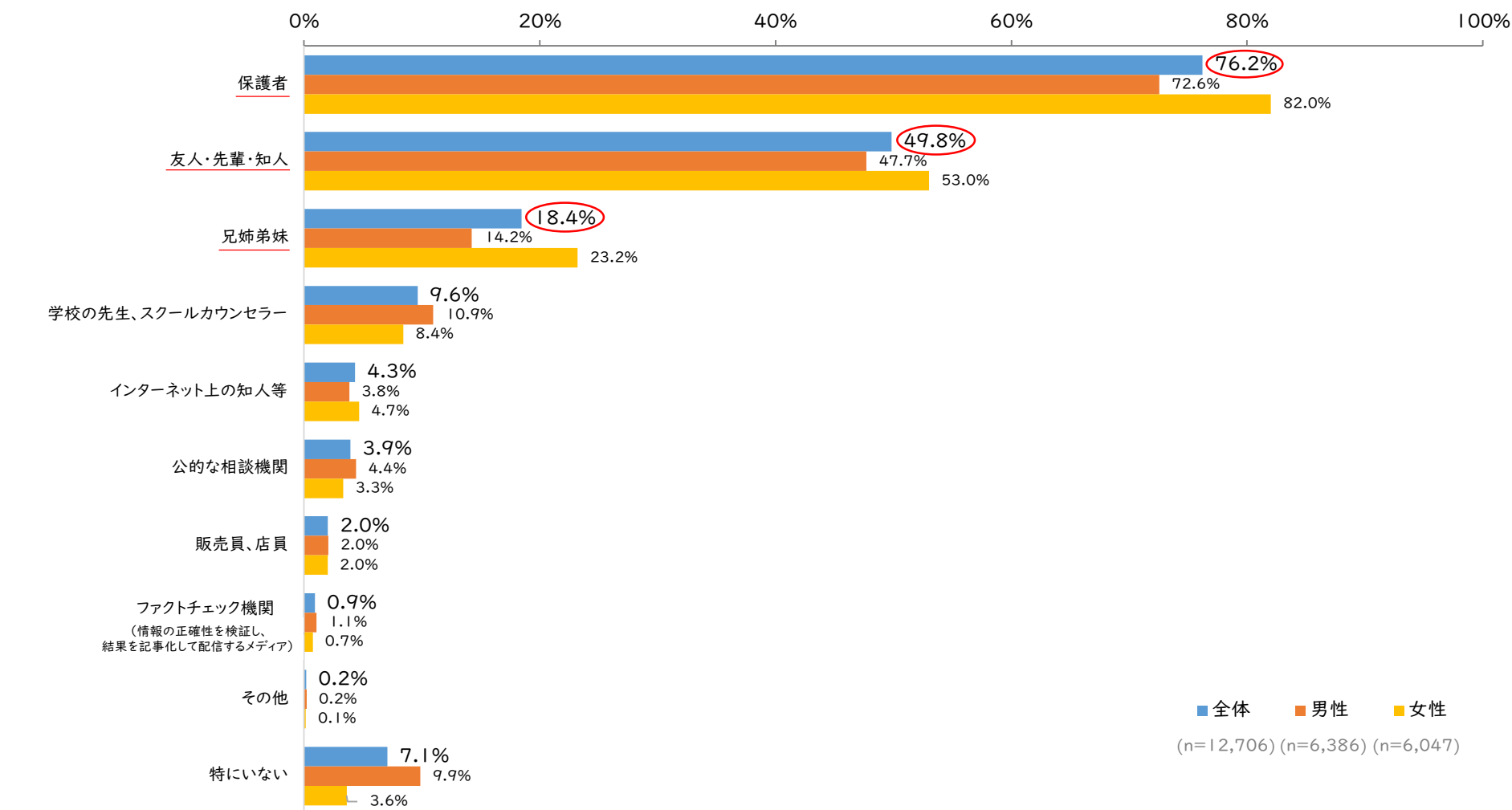
4. アンケート結果

4-3. トラブル遭遇時の対応 ②トラブル遭遇時に相談する相手

○ **トラブル遭遇時に相談する相手**については、**全体の76.2%**が「**保護者**」と回答。次いで「友人・先輩・知人」(49.8%)、「兄弟姉妹」(18.4%)との回答が多い。

【図表】トラブル遭遇時に相談する相手(複数回答)

インターネット上のトラブルがあった場合、あなたが相談する人は誰ですか。



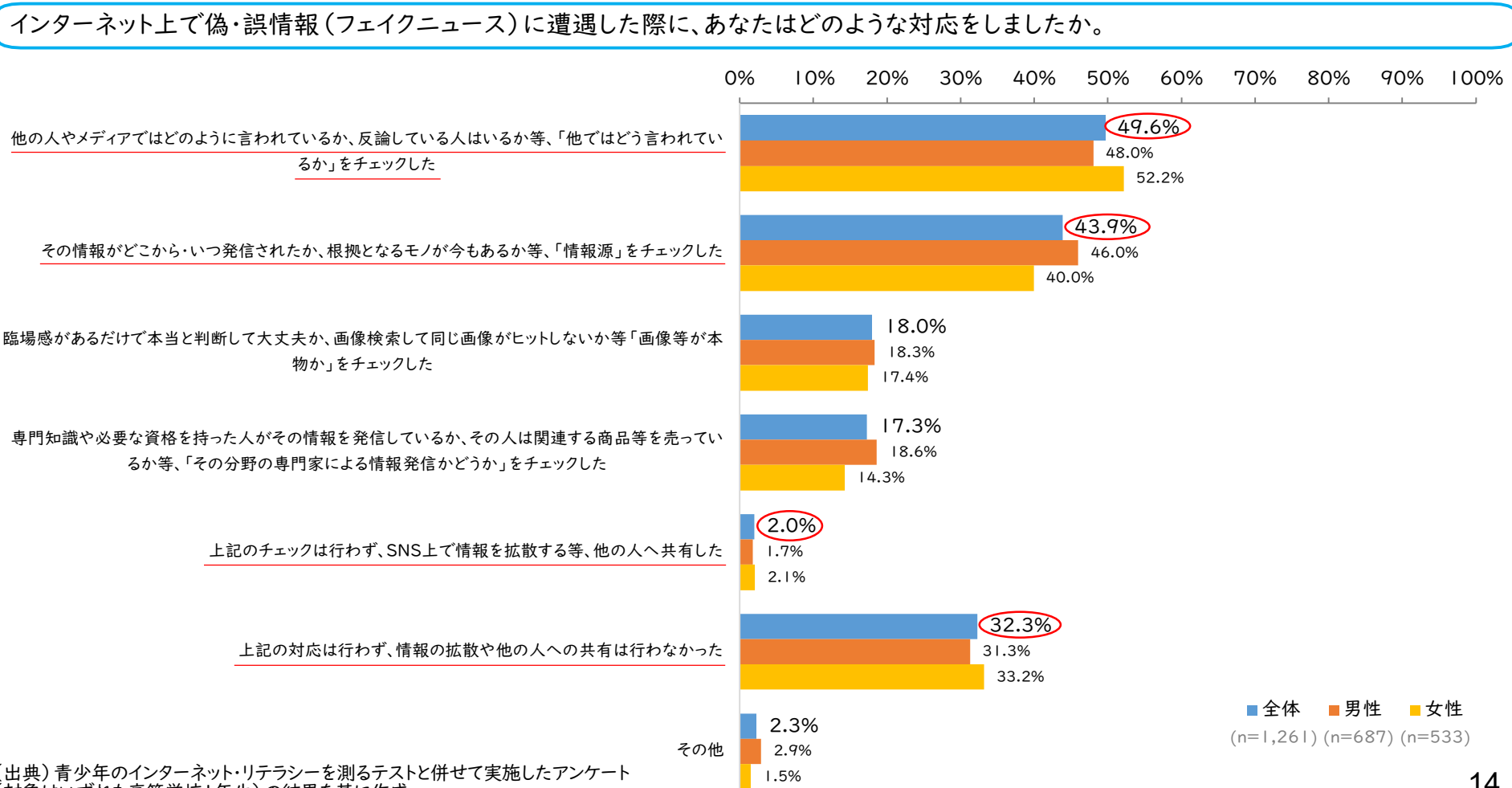
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

4. アンケート結果

4-3. トラブル遭遇時の対応 ③偽・誤情報（フェイクニュース）遭遇時の対応

- 偽・誤情報（フェイクニュース）に遭遇した際の対応については、全体の半数近くの**49.6%**が、「他の人やメディアではどのように言われているか、反論している人はいるか等」「他ではどう言われているか」をチェックした」と回答。
- 次いで**43.9%**が「その情報源がどこから・いつ発信されたか、根拠となるモノが今もあるか等」「情報源」をチェックした」と回答。「対応は行わず、情報の拡散や他者への共有を行わなかった」との回答が**32.3%**。（なお、「チェックは行わずに、SNS上で情報を拡散する等、他の人に共有した」との回答が**2.0%**）。

【図表】偽・誤情報（フェイクニュース）に遭遇した際の対応（複数回答）



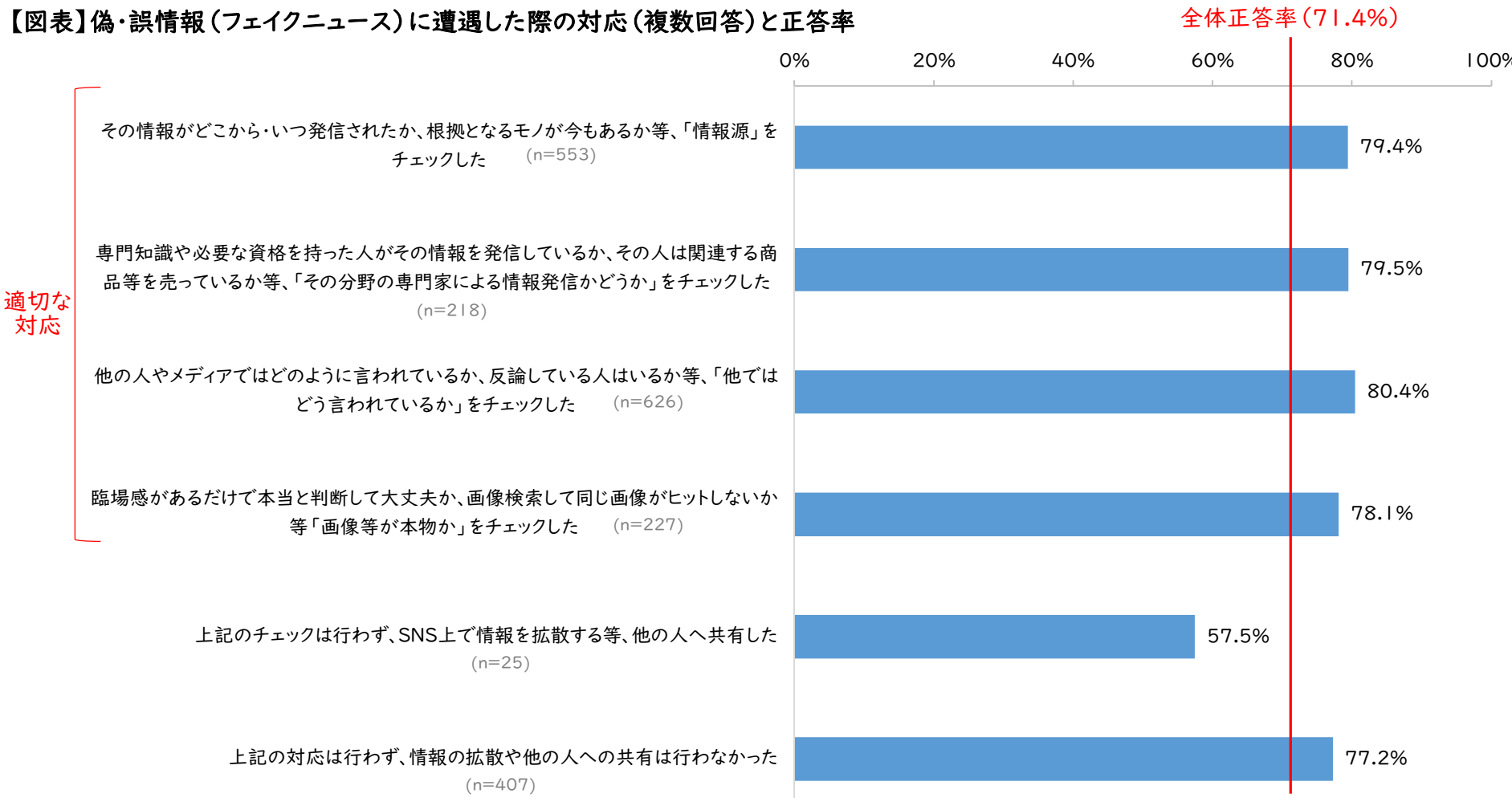


4. アンケート結果

4-3. トラブル遭遇時の対応 ④偽・誤情報遭遇時の対応とILAS結果

- 偽・誤情報（フェイクニュース）に遭遇した際に適切な対応をとっている者の正答率は全体正答率を超え、「SNS上で情報を拡散する等、他の人へ共有した」という適切な対応をとっていない者の正答率は、全体正答率より低い傾向がみられた。
- 一方で、適切な対応をとっている者と「対応は行わず、情報の拡散や他の人への共有は行わなかった」者の正答率については、ほぼ同様の正答率となった。

【図表】偽・誤情報（フェイクニュース）に遭遇した際の対応（複数回答）と正答率



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。



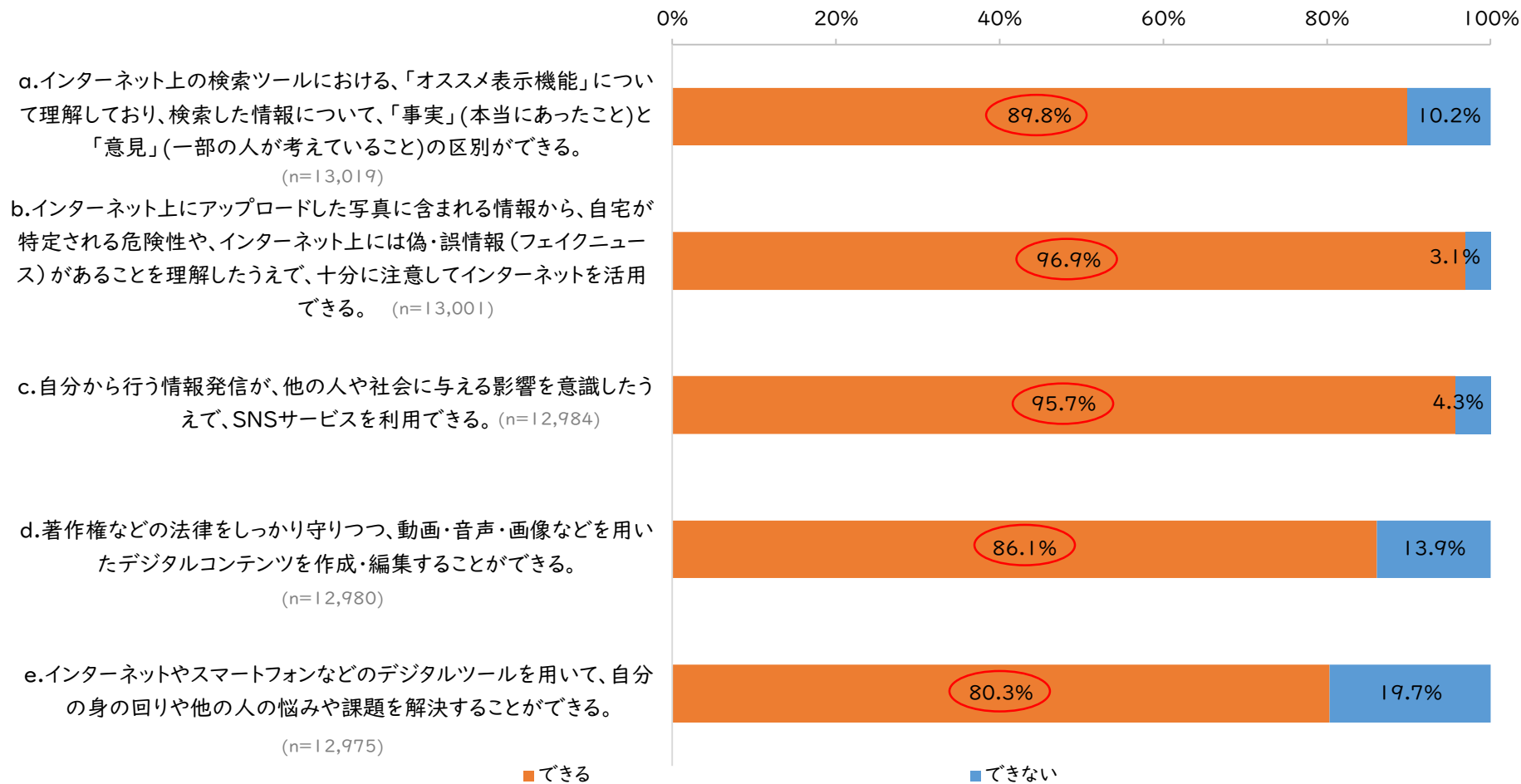
4. アンケート結果

4-4. ICT機器利用に必要な能力の状況 ①ICT機器利用に必要な能力の有無

○ ICT機器を使うにあたって必要と思われる、以下a～eの各能力について、8割以上が、現状、「できる」と回答した。

【図表】ICT機器の使用にあたって必要な能力（各能力につき択一回答）

ICT機器（スマートフォンやPC等を含みます。）を使うにあたって必要と思われる、以下a～eの能力について、あなたの現状をお答えください。

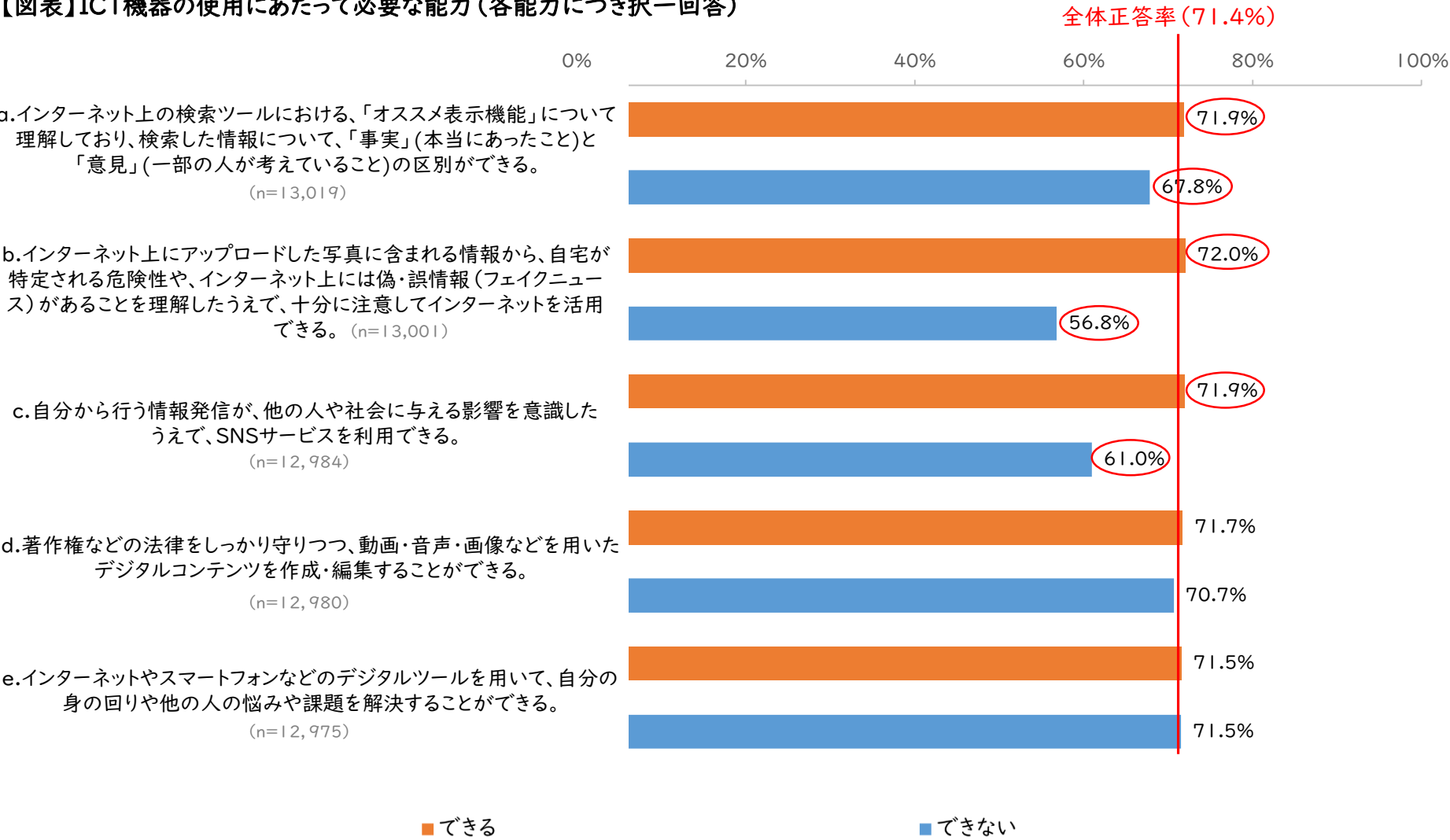


4. アンケート結果

4-4. ICT機器利用に必要な能力の状況 ②必要な能力の有無とILAS結果

○ ICT機器を使うにあたって必要と思われる、以下a～eの各能力の中で、特にa、b、cの能力において、「できる」と回答した者と「できない」と回答した者の間で、ILASの正答率に約5～15%の差異が生じた。

【図表】ICT機器の使用にあたって必要な能力（各能力につき択一回答）



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

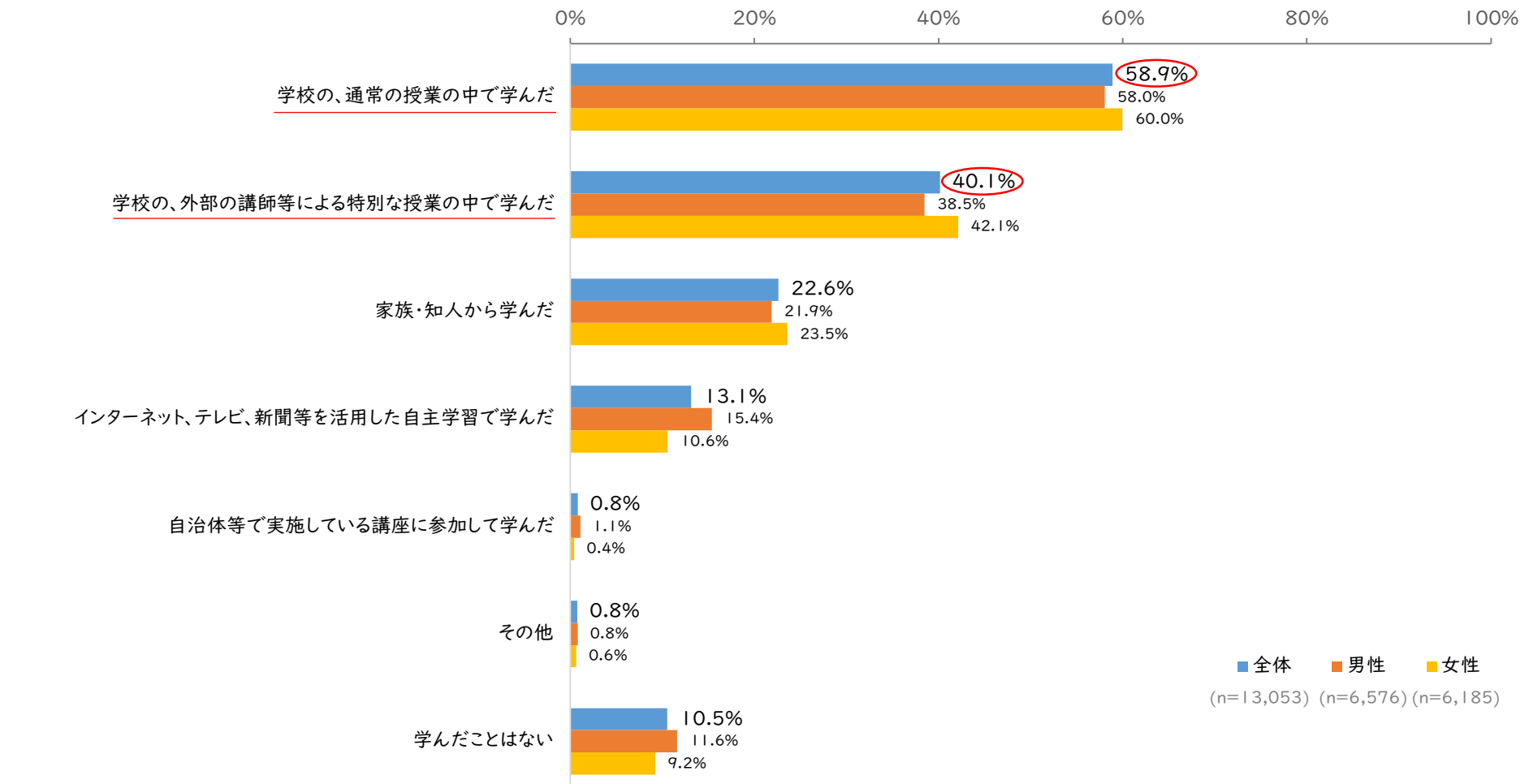
4. アンケート結果

4-4. ICT機器利用に必要な能力の状況 ③必要な能力の学習機会の有無

○ ICT機器を安心・安全に利用するに当たって必要な能力を学んだ場については、全体の58.9%が「学校の、通常の授業の中で学んだ」と回答。次いで「学校の、外部の講師等による特別な授業の中で学んだ」(40.1%)との回答が多い。

【図表】ICT機器の使用にあたって必要な能力の学習機会(複数回答)

あなたは前ページに記載のa～eの能力について、学んだことはありますか。



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

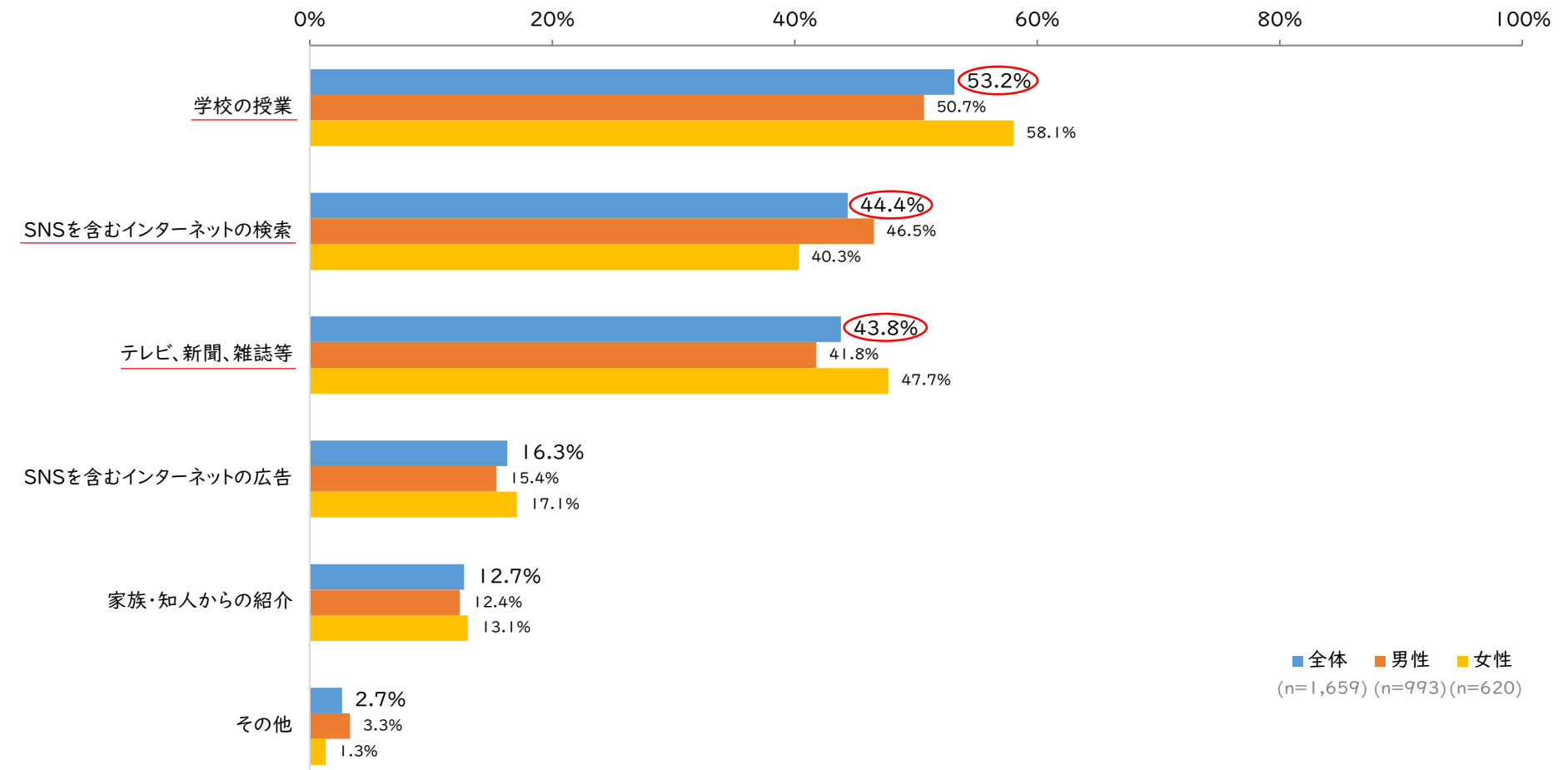
4. アンケート結果

4-4. ICT機器利用に必要な能力の状況 ④必要な能力を学習したきっかけ

○ ICT機器を安心・安全に利用するに当たって必要な能力について、学ぶための教材や学ぶ機会の存在を知ったきっかけは、「学校の授業」(53.2%)に次いで、「SNSを含むインターネットの検索」(44.4%)、「テレビ、新聞、雑誌等」(43.8%)といった外部の情報源が多かった。

【図表】ICT機器の使用にあたって必要な能力について、学ぶための教材や学ぶ機会の存在を知ったきっかけ(複数回答)

あなたは前ページに記載のa～eの能力について、学ぶための教材や学ぶ機会の存在を知ったきっかけは何ですか。



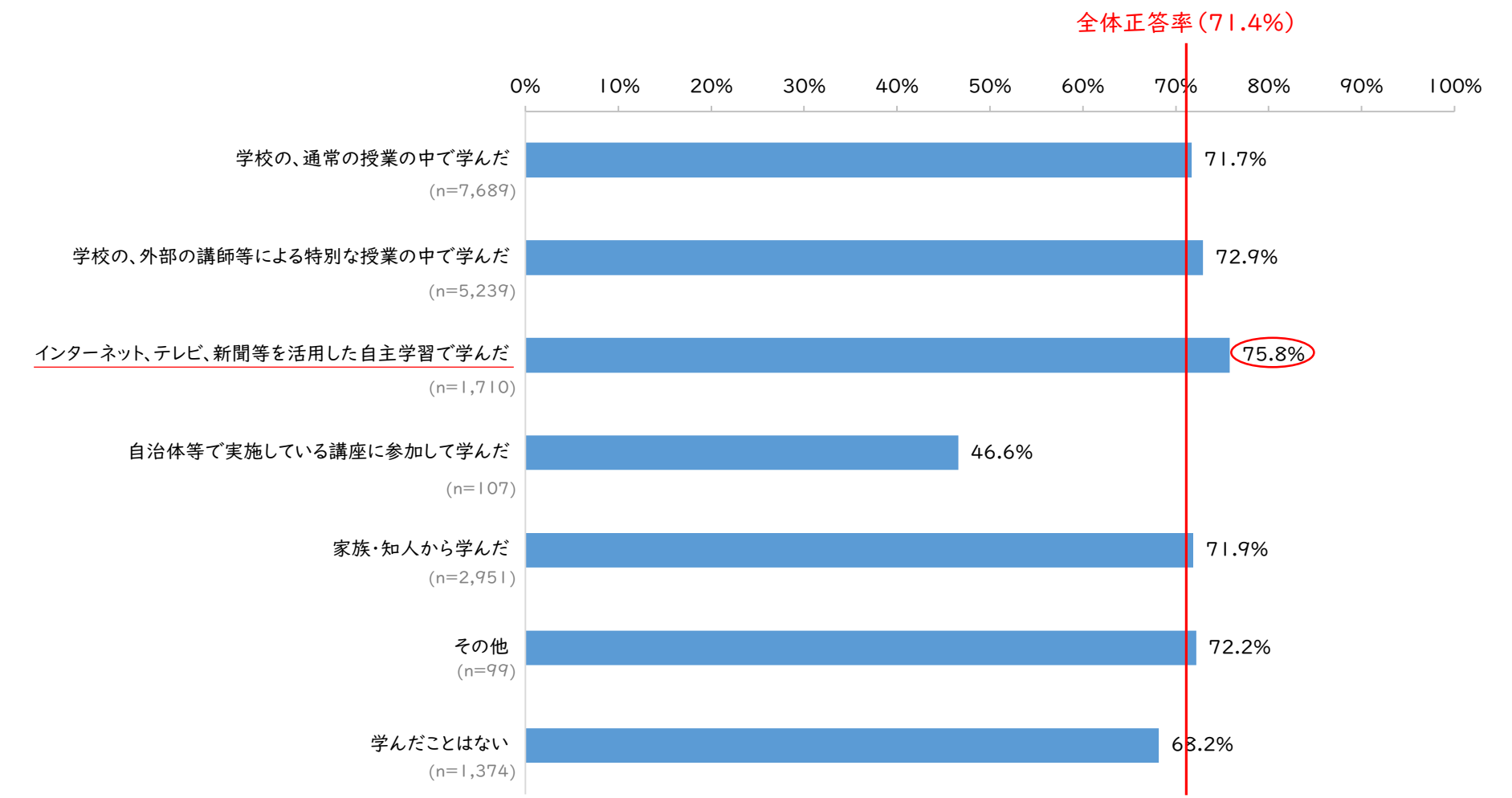
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

4. アンケート結果

4-4. ICT機器利用に必要な能力の状況 ⑤学習したきっかけとILAS結果

○ ICT機器を安心・安全に利用するに当たって必要な能力について、学ぶための教材や学ぶ機会の存在を知ったきっかけ別のILAS結果については、学習機会があったと回答した者の正答率は概ね全体正答率と比較して高い傾向にあり、特に、「インターネット、テレビ、新聞等を活用した自主学習で学んだ」(75.8%)と回答した者の正答率が高い。

【図表】ICT機器の使用にあたって必要な能力について、学ぶための教材や学ぶ機会の存在を知ったきっかけ(複数回答)と正答率

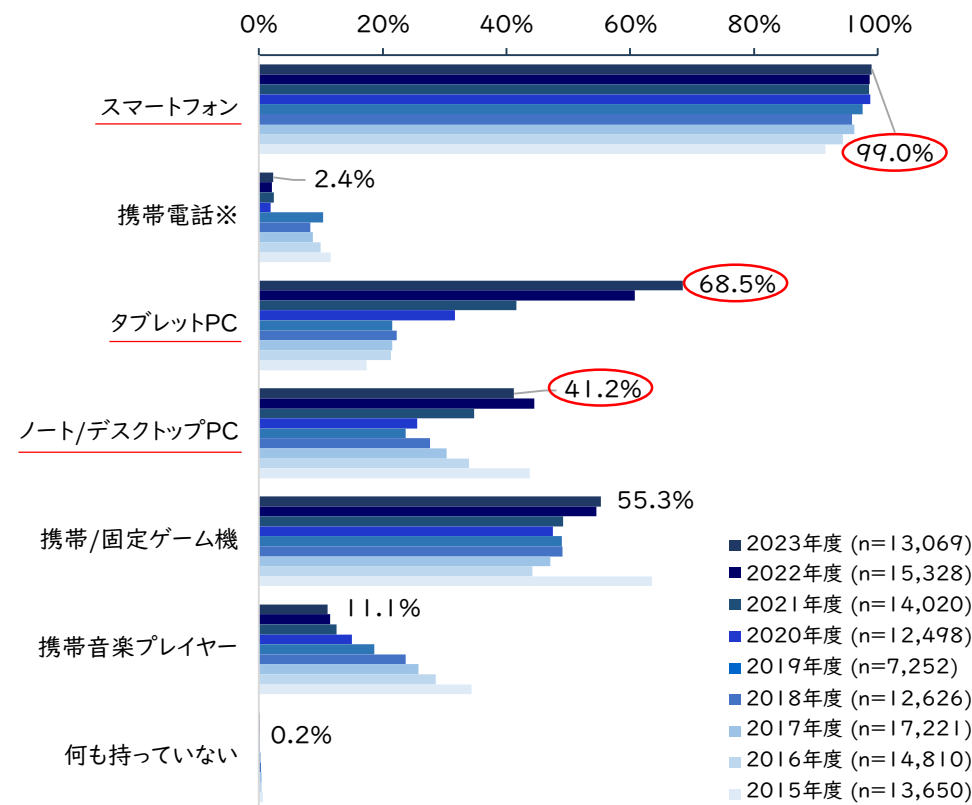


# (参考) インターネット接続機器ごとの保有割合

- 全体の99.0%が、インターネット接続機器として「スマートフォン」を保有していると回答。【図表1】
- 2020年度から急増している「タブレットPC」の保有率は引き続き約7割(68.5%)と増加。「ノート/デスクトップPC」の保有率は減少傾向となった(41.2%)。【図表1】
- 全体の93.1%が、最もよく利用する機器について「スマートフォン」と回答。【図表2】

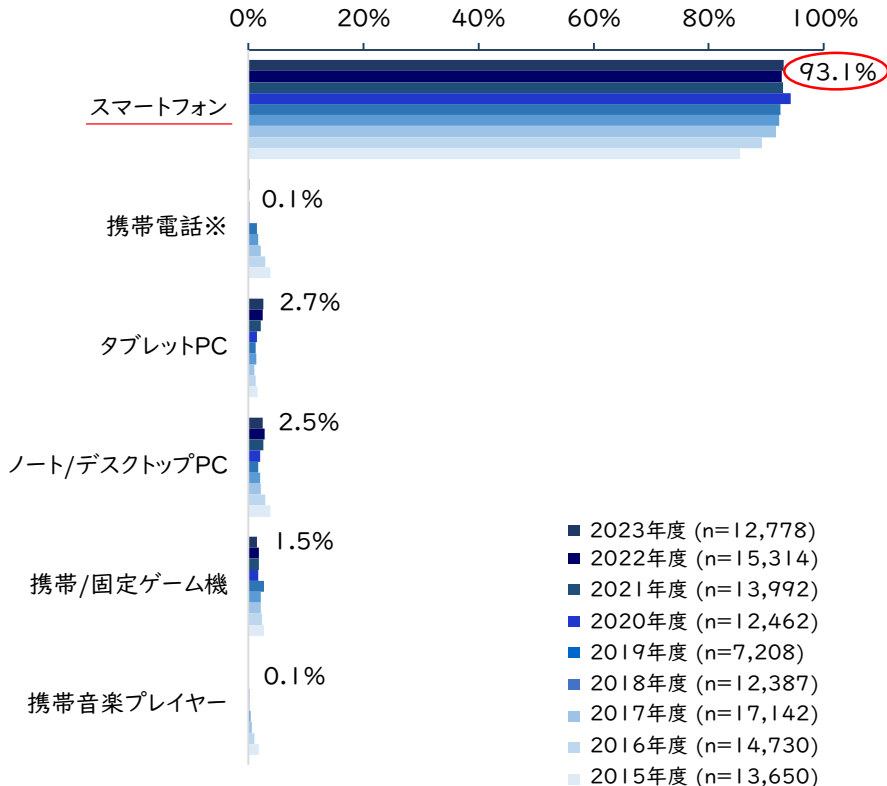
【図表1】保有するインターネット接続機器(複数回答)

あなたが保有しているインターネットに接続する機器を教えてください。



【図表2】保有するインターネット接続機器のうち、最もよく利用する機器(択一回答)

左の問でお答えいただいた機器の中であなたが最もよく利用する機器はどれですか。



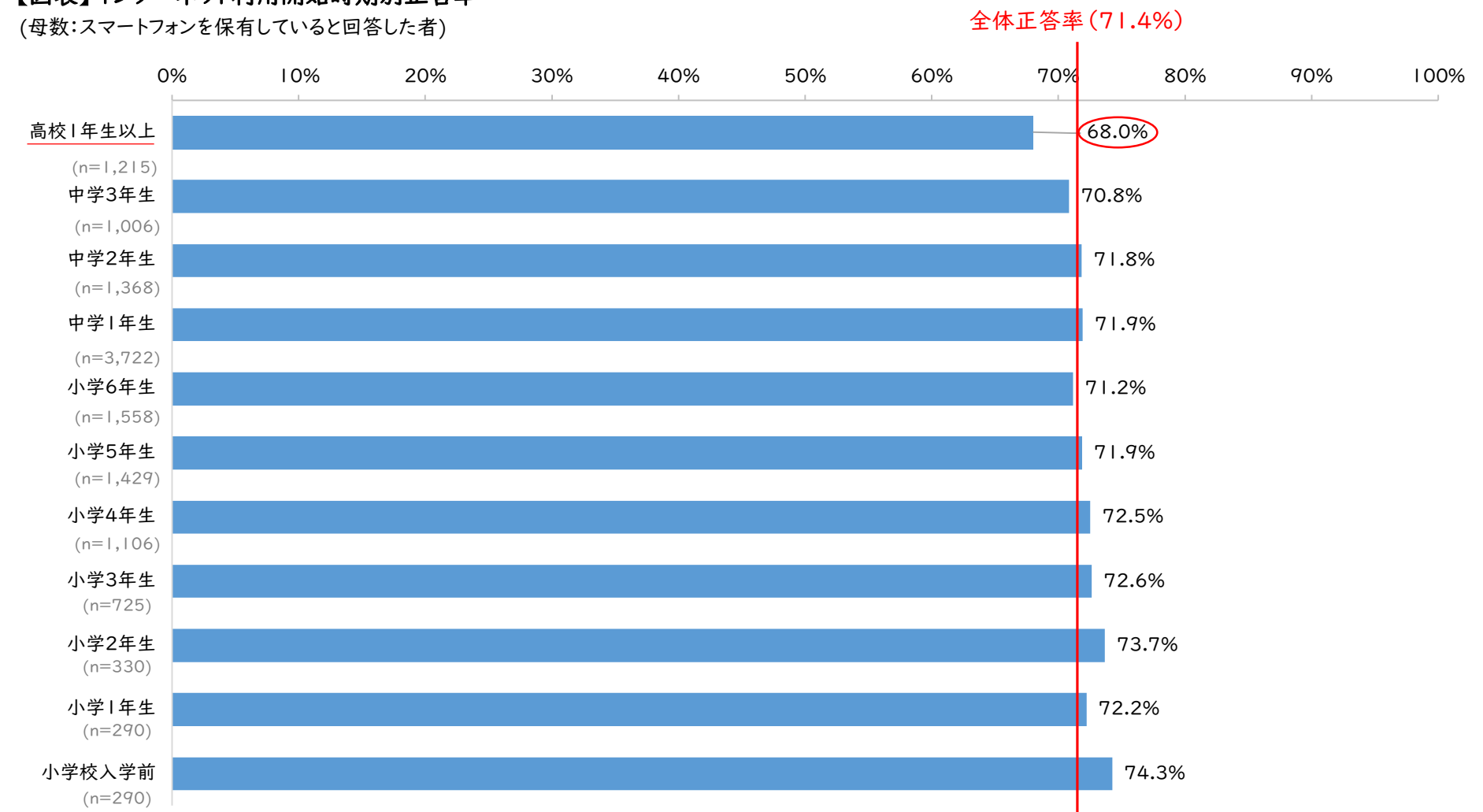
(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

# (参考) インターネット利用開始時期とILAS結果

○ インターネットの自由な利用を開始した時期別にILASの正答率の違いの有無については、「高校1年生以上」で自由な利用を開始した者は正答率が68.0%と、それ以外の時期に自由な利用を開始した者に比べて低くなっている。

【図表】インターネット利用開始時期別正答率

(母数:スマートフォンを保有していると回答した者)



※「現在も、プライベートではインターネットを利用していない」(n=23)と回答した者は少数のためグラフより割愛

(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

# (参考) 平日1日当たりの平均スマートフォン利用時間と ILAS結果

- スマートフォンの平日1日当たりの平均利用時間は「2～3時間未満」との回答が最も多く(26.5%)、次いで「3～4時間未満」が23.1%と多い。また、53.6%がスマートフォンを3時間以上利用している。【図表1】
- 平日のスマートフォン利用時間別にILASの総合正答率の違いの有無をみると、利用時間が長いほど、正答率が低い傾向が見られた。【参考】

あなたが平日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

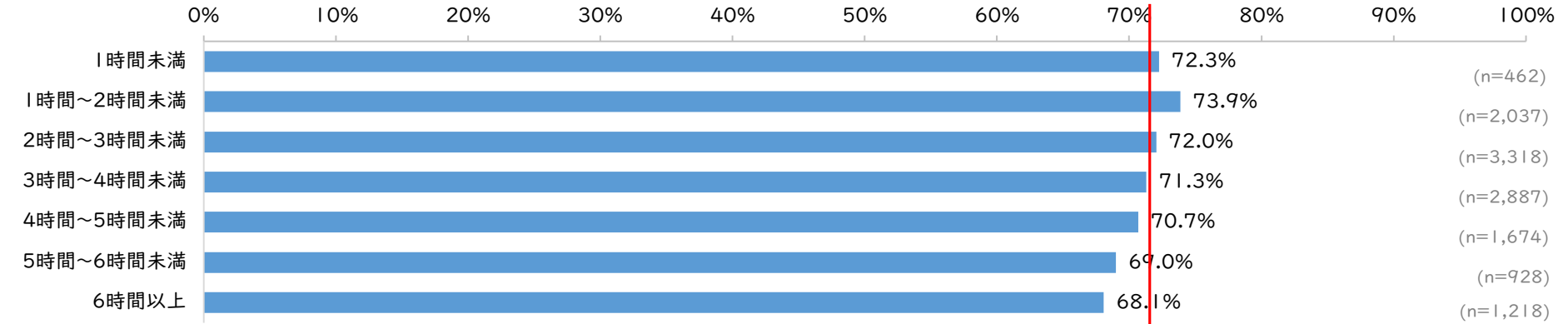
【図表1】平日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

		1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン	(n=12,524)	3.7%	16.3%	26.5%	23.1%	13.4%	7.4%	9.7%
携帯電話	(n=240)	75.8%	8.3%	4.2%	2.9%	2.1%	2.1%	4.6%
タブレットPC	(n=8,032)	58.4%	21.8%	9.3%	4.8%	2.4%	1.6%	1.7%
ノートPC/デスクトップPC	(n=5,475)	66.8%	17.9%	7.5%	3.9%	1.7%	0.9%	1.2%
携帯ゲーム機/固定ゲーム機	(n=9,267)	69.4%	18.1%	7.0%	2.7%	1.2%	0.6%	1.1%
携帯音楽プレイヤー	(n=1,326)	70.5%	18.4%	5.3%	2.8%	1.4%	0.4%	1.2%

計53.6%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【参考】スマートフォンの利用時間別の正答率 (母数:スマートフォンを保有していると回答した者)



全体正答率(71.4%)

(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。



# (参考) 休日1日当たりの平均スマートフォン利用時間と ILAS結果

- スマートフォンの休日1日当たりの平均利用時間は「6時間以上」との回答が最も多く(28.7%)、3時間以上利用者は約8割(79.4%)を占める。【図表1】
- 平日と比較すると、「タブレットPC」「ノートPC/デスクトップPC」「携帯ゲーム機/固定ゲーム機」の利用時間が全体的に伸びていることが見て取れる。【図表1】

あなたが休日にインターネットを利用する際に使う機器について、それぞれの1日の平均使用時間を教えてください。

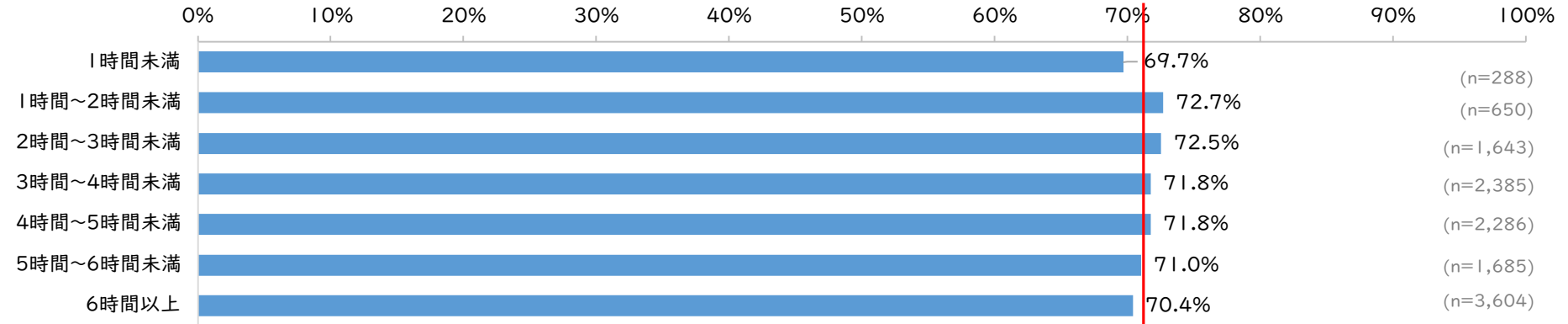
【図表1】休日1日当たりの平均利用時間(択一回答)

計79.4%

		1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3～4時間未満	4～5時間未満	5～6時間未満	6時間以上
スマートフォン	(n=12,541)	2.3%	5.2%	13.1%	19.0%	18.2%	13.4%	28.7%
携帯電話	(n=225)	75.1%	8.0%	4.4%	3.6%	1.8%	1.8%	5.3%
タブレットPC	(n=7,996)	68.9%	14.7%	7.2%	3.4%	2.1%	1.2%	2.5%
ノートPC/デスクトップPC	(n=5,424)	70.1%	11.3%	5.9%	4.4%	2.6%	1.6%	4.0%
携帯ゲーム機/固定ゲーム機	(n=9,233)	56.4%	18.3%	12.0%	5.8%	3.0%	1.4%	3.1%
携帯音楽プレイヤー	(n=1,313)	67.7%	15.1%	6.9%	4.9%	2.1%	1.2%	2.2%

(※表は小数点以下第2位を四捨五入しているため、グラフの値の足し上げが100%にならない場合がある)

【参考】スマートフォンの利用時間別の正答率 (母数:スマートフォンを保有していると回答した者) 全体正答率(71.4%)



(出典) 青少年のインターネット・リテラシーを測るテストと併せて実施したアンケート(対象はいずれも高等学校1年生)の結果を基に作成。

## (参考) 啓発コンテンツ

○ 青少年のスマートフォン(インターネット)の安全・安心な利用に関して参考となる啓発コンテンツを、次のとおりご紹介します。

- ネット&SNS よりよくつかって 未来をつくろう ～ICT活用リテラシー向上プロジェクト～  
ICTリテラシーに関する取組を実施する事業者等と協力し、事業者等の取組をまとめたWebページ  
<https://www.ict-mirai.jp/>



- 家庭で学ぶデジタル・シティズンシップ  
保護者を対象としたデジタル・シティズンシップ推進に資する啓発コンテンツ  
[https://www.soumu.go.jp/use\\_the\\_internet\\_wisely/parent-teacher/digital\\_citizenship/](https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/parent-teacher/digital_citizenship/)

- インターネットトラブル事例集  
子育てや教育の現場での保護者や教職員の活用にあ資するため、インターネットに係るトラブル事例の予防法等をまとめた教材  
[https://www.soumu.go.jp/use\\_the\\_internet\\_wisely/trouble/](https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/trouble/)



# (参考)「上手にネットと付き合おう!～安心・安全なインターネット利用ガイド～」特集ページ

- 総務省のインターネットの安心・安全な利用に関する啓発ウェブサイト「上手にネットと付き合おう!～安心・安全なインターネット利用ガイド～」の特集ページにて、ILASについて取り上げています。

上手にネットと付き合おう!～安心・安全なインターネット利用ガイド～(総務省)

特集ページ(青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査)

[https://www.soumu.go.jp/use\\_the\\_internet\\_wisely/special/ilas/](https://www.soumu.go.jp/use_the_internet_wisely/special/ilas/)

上手にネットと付き合おう!  
安心・安全なインターネット利用ガイド

文字サイズ 大 中 小  ENHANCED BY Google  総務省  
Ministry of Internal Affairs and Communications

[未就学児・未就学児の保護者](#) [青少年\(U18\)](#) [保護者・教職員](#) [シニア](#) [インターネットトラブル事例集](#) **特集ページ** [動画コンテンツ集](#) [リンク集](#)

TOP > 特集ページ > 青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標等に係る調査

特集ページ

**青少年がインターネットを安全に安心して活用するための  
リテラシー指標等に係る調査**  
— ILAS (Internet Literacy Assessment indicator for Students) —

総務省では、青少年のインターネット・リテラシー向上のため、特にインターネット上の危険・脅威に対応するための能力とその現状等を可視化するため、これらの能力を数値化するテストを指標として開発しました。2012年度より毎年、高等学校1年生を対象に、青少年のインターネット・リテラシーを測るテストをインターネット等の利用状況に関するアンケートとあわせて実施しています。



**青少年に必要なリスク対応能力の分類**

インターネット上の危険・脅威への対応に必要な能力(リスク対応能力)について、以下のように分類。

リスク分類	リスクの具体例	対応能力
<b>1 違法有害情報リスク</b> 		
1a. 違法情報リスク	著作権、肖像権、出会い系サイト等	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
1b. 有害情報リスク	不適切投稿、売上、閲覧制限等	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる。
<b>2 不適正利用リスク</b> 		
2a. 不適切接触リスク	匿名SNS、迷惑メール、SNSいじめ等	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる。
2b. 不適正取引リスク	フィッシング、ネット上の売買等	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる。
2c. 不適切利用リスク	過大消費、依存、歩きスマホ、マナー等	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる。
<b>3 プライバシー・セキュリティリスク</b> 		
3a. プライバシーリスク	プライバシー、個人情報の流出等	プライバシー保護を図り利用できる。
3b. セキュリティリスク	ID・パスワード、ウイルス対策等	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる。